

# 14-0 ナナカマド (七竈) の巨木

バラ科ナナカマド属 *Sorbus commixta*

※日本の山地に広く分布する落葉高木であるが、ほとんどが分岐幹で株立ちになり、巨木になるものは稀である。巨木位置図は「ヤマナシの巨木位置図」に記載。



日本一のナナカマド

つるぎさん

剣山のナナカマド 評価 B

幹周 M2.2m(1.3m 2010) 樹高 8m

徳島県三好市 剣山

ナナカマドは山地に生え、赤い美しい実を垂れるように付ける樹木として知られる。真っ赤な紅葉で高山の秋を彩るのはウラジロナナカマドで、実が上を向くので区別がつく。巨木としての認識のない樹木で、山地で見ると、大きなものでも幹は腕程であろうか。

四国の剣山へアザミ属の調査に登った時に偶然発見した。標高 1800m 付近の登山道沿いにナナカマドの古木が多い事に気がついた。巨木があるのではないかと、植物調査終了後再び丹念に調べていくと、あった。

標高 1760m の登山道沿いにあり、地上 0.5m と 1.5m に細い幹が出るものの、ほぼ単幹樹である。主幹は苔むし、いったいこの地にどれ程の年月生き長らえてきたのか、想像を絶するものであった。

## 15, ヤナギ科の巨木 Salicaeae

■ヤナギ科の巨木は以下に分類する。

A シダレヤナギの巨木

B シロヤナギの巨木

C マルバヤナギ(アカメヤナギ)の巨木

D バッコヤナギの巨木

E コゴメヤナギ

F オオバヤナギの巨木

G ケショウヤナギの巨木

H ドロノキの巨木

I ポプラの巨木

※ヤナギ科の樹木は、専門家の間でも分類に様々な意見があり、分類が難しい樹木である。しかし、巨木に成長するものが少なく、報告例は上記の樹種に限られているので、本書では報告例がある巨木のみ分類する。

## 15-A シダレヤナギ(枝垂柳)の巨木

ヤナギ科ヤナギ属 *Salix babylonica*

※中国原産で奈良時代に朝鮮を経由して渡来したといわれる。日本全土に植栽され、人によって育てられたもので、巨木の全ては人里にある。しかし、寿命は長くなく、幹周 6m を越えるような巨大なものは報告されていない。

## ■主なシダレヤナギの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
C	市神の柳 写真 SY-001	5.0m	19m	秋田県横手市雄物川町今宿	なし
C	羽黒の柳 写真 SY-002	4.8m	12m	秋田県横手市上内町 1-1	市
C	笹原のシダレヤナギ 写真 SY-003	4.2m	20m	長野県茅野市湖東笹原	市



写真 SY-001

いちがみ  
**市神の柳**

商店街の中程、家屋に挟まれるように巨大な柳が立ち、「市神様」として、守護神になっている。

(写真・石田徹)



写真 SY-002

はぐろ  
**羽黒の柳**

県道の歩道に立っている。かつては樹高 30m もあったというが、現在は衰弱している。

(写真・石田徹)



写真 SY-003

さきはら  
**笹原のシダレヤナギ**

笹原公民館の敷地に立つ。

(写真・「線翔庵」より)

## 15-B シロヤナギ(白柳)の巨木

ヤナギ科ヤナギ属 *Salix jessoensis*

※中部地方以北の湿った原野、河原等に生える落葉高木。同じような環境に生えるタチヤナギとの区別が難しい。巨木の報告例は東北に多く、日本一とされていた「津谷の大ヤナギ」は「桂城公園のシロヤナギ」に座を譲った。位置図は「ヤナギ科の巨木位置図」(586頁)に記載。

### ■シロヤナギの巨木評価基準

A 幹周おおむね 5.5m 以上の単幹樹、同等評価のシロヤナギの巨木。

B 幹周おおむね 4~5.5m の単幹樹、同等評価のシロヤナギの巨木。 C B 評価以下のシロヤナギの巨木。

### ■主なシロヤナギの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	桂城公園のシロヤナギ SY-001	5.7m	21m	秋田県大館市字中城 1 桂城公園	なし
B	津谷の大ヤナギ SY-002	株周 M7.3m(0.3m 2007)	18m	山形県最上郡戸沢村津谷大柳	村
C	供養塚のヤナギ SY-003	4.7m	10m	岩手県奥州市胆沢区若柳字下松原	町

## ■ヤナギ科の巨木位置図

●シダレヤナギの巨木

★シロヤナギの巨木

▲マルバヤナギ(アカメヤナギ)の巨木

○バッコヤナギの巨木

△コゴメヤナギの巨木

■オオバヤナギの巨木

□ケショウヤナギの巨木

☆ドロノキの巨木



写真 SY-001

日本一のシロヤナギ

けいじょうこうえん

### 桂城公園のシロヤナギ

巨木DBでは全国二位にランクされているシロヤナギの巨木。一位とされる「津谷の大ヤナギ」の調査では、巨木DBでは幹周7.7mの単幹樹とされているが、実際は主幹の幹周が6.5mで、細く垂れる2本の側幹があり、この合計周であった。又、主幹は1.5mで2分岐し、樹形がかなり斜上する事等から、桂城公園のシロヤナギの幹周が5.7mであっても、完全な単幹樹で巨大感溢れので、日本一のシロヤナギにふさわしいと判断された。(写真・Web画像)





◀写真 SY-002  
旧日本一のシロヤナギ  
津谷の大ヤナギ

新庄市の境近く、最上川が津谷で升形川と分岐したすぐ東方、広々とした水田の片隅に立つ。伝承によれば、升形川の対岸にある岩清水集落の先祖の方が、江戸時代末期に植えたという。さすれば樹齢はさほど古い事にはならず、少々不思議である。シロヤナギは成長が格段に早いのかもしれない。

地上1.5mで二分岐する。脇に根のような二本の細い幹が残っているのは、裏面から見るとその原因がはっきりわかる。幹内部が朽ち落ち、皮の一部が残ったものである。健在な頃は、朽ちた部分に幹があって、素晴らしい樹形をしていた事を伺わせる。



◀写真 SY-003  
供養塚のヤナギ

根元で2分岐する大ヤナギであったが、2011年9月3日の台風で折れた。供養塚は、根元に施餓鬼供養のため、一つ一つの石に法華経の一文字を書き、埋めたという。

(写真・Web画像)

## 15-C マルバヤナギ(丸葉柳)の巨木

ヤナギ科ヤナギ属 *Salix chaenomelidec*

※宮城県・山形県の中中部以南に分布する落葉高木。別名をアカメヤナギと呼び、若葉が赤みを帯びる事による。マルバヤナギは葉が丸みを帯びる事による。図鑑によってはエゾノタカネヤナギの事をマルバヤナギ、フリソデヤナギの事をアカメヤナギ等と呼んでいるので、注意が必要。極端に巨大なものがなく、日本一選定は行なわない。

### ■マルバヤナギの巨木評価基準

- A 幹周おおむね6m以上の単幹樹、同等評価のマルバヤナギの巨木。
- B 幹周おおむね4~6mの単幹樹、同等評価のマルバヤナギの巨木。
- C B評価以下のマルバヤナギの巨木。

### ■主なマルバヤナギ(アカメヤナギ)の巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	桂萱小学校のアカメヤナギ 写真 MY-001	5.6m(M4.5程か?)	15m	群馬県前橋市上泉町178	なし
B	四ツ松のアカメヤナギ 写真 MY-002	5.2m	10m	愛知県豊田市四ツ松町	市
B	栗原の四本柳 写真 MY-003	4.8m	8m	岡山県真庭市栗原字木樵山	県
B	三柱神社のアカメヤナギ 写真 MY-004	4.6m	15m	兵庫県美方郡新温泉町福富	町
B	伝・桐生大炊介手植の柳 写真 MY-005	4.1m	10m	群馬県桐生市東町 清水児童公園	県

評価	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	池ノ内のアカメヤナギ 写真 MY-006	4.2m	16m	奈良県御所市池ノ内幸町	なし
C	朝日小学校のアカメヤナギ	4.85m(上部破損)	11m	山梨県甲府市塩部 1-4-1	なし
C	天女の衣掛柳 写真 MY-007	株周 4.8m(0.3m 2008)	11m	滋賀県伊香郡余呉町川並字砂新田	なし
C	万力のアカメヤナギ 写真 MY-008	株周 4.1m(0.2m 2010)	14m	山梨県山梨市万力 万力公園	市
C	井頭のヤナギ A 写真 MY-009	5.3m(2 分岐合計)	12m	東京都練馬区大泉 大泉井頭公園	区
C	井頭のヤナギ B 写真 MY-010	3.7m	13m	”	区
C	群馬の森のアカメヤナギ 写真 MY-011	3.4m	10m	群馬県高崎市綿貫町 群馬県立自然公園	なし



写真 MY-001

かづらがやししょうがっこう  
桂萱小学校のアカメヤナギ

小学校の片隅に立つ巨木。巨木 DB 幹周 5.6m は、地上 1.3m の分岐で膨らんだ部分。M 式は少し小さいと思われる。(写真・Web 画像)



写真 MY-002

よつまつ  
四ツ松のアカメヤナギ

住宅街の片隅に立つ。(写真・Web 画像)



写真 MY-003

くりほら しほんやなぎ  
栗原の四本柳(最大株)

備中川の右岸に 4 本並んで立つ。最大株は上流から 2 本目だが、台風で主幹が折れ、樹高は低くなった。(写真・Web 画像)



写真 MY-004

みはしらじんじや  
三柱神社のアカメヤナギ

三柱神社境内に立ち、主幹全体は斜上し、地上 1.5m で分岐している。(写真・谷田元彦)

▼写真 MY-005

でん きりゅうおおいのすけ てう やなぎ  
伝・桐生大炊介手植えの柳

桐生城主・桐生重綱がこの地で落馬して亡くなり、その子桐生大炊介が供養として柳を植えたという。



▲写真 MY-006

いけのうら  
池ノ内のアカメヤナギ

幸町バス停から 50m 東に立つ巨木。(写真・Web 画像)



写真 MY-007

てんによ きぬかけやなぎ  
天女の衣掛柳

根元で 2 分岐、余呉湖湖畔の道路沿いに立つ。



写真 MY-008

**万力のアカメヤナギ**

万力公園の端、水路沿いに、水路を覆うように立ち、根元近くで分岐している。かなりの古木である。



写真 MY-009

**井頭のヤナギ A**

公園の南側に2本並んで立つ。大きい方は根元近くで2分岐する。

(写真・Web 画像)



写真 MY-010

**井頭のヤナギ B**

公園の南側に2本並んで立つ。斜上する樹形が面白い。

(写真・Web 画像)



写真 MY-011

**群馬の森のアカメヤナギ**

公園の中程に3本のアカメヤナギの巨木があり、その内の最大株。樹高19mあったが、折れて低くなり、側枝が多数伸びている。

(写真・Web 画像)

# 15-D バッコヤナギの巨木

ヤナギ科ヤナギ属 *Salix bakko*

※四国・近畿地方以北から、北海道西南部に分布する落葉高木。別名ヤマネコヤナギ。雄株は春の山で、丸みを帯びた大きな黄色の花を多数付け、よく目立つ。巨木の報告例は少ない。位置図は「ヤナギ科の巨木位置図」に記載。



**日本一のバッコヤナギ**

**北海道護国神社のバッコヤナギ**

幹周 4.77m 樹高 17m B 評価

北海道旭川市花咲1丁目

境内の神門横に立つ。バッコヤナギの巨木としては大変珍しい存在であるが、比較検討する巨木の出現を待ちたい。

(写真・中川勝弘)

# 15-E コゴメヤナギの巨木

ヤナギ科ヤナギ属 *Salix serissaefolia*

関東・中部・近畿地方の日当たりの良い湿地や川岸に生える落葉高木。別名コメヤナギ。シロヤナギによく似るが、花穂、葉は長さが半分程度。巨木の報告例は少ない。位置図は「ヤナギ科の巨木位置図」に記載。

## ■主なコゴメヤナギの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
C	田野上のヤナギ 写真 KY-001	4.8m	20m	新潟県上越市名立区田野上	なし
C	豊水橋のコゴメヤナギ 写真 KY-002	3.58m	14m	茨城県常総市豊岡町	なし
C	塩津のコゴメヤナギ 写真 KY-003	3.3m	15m	兵庫県豊岡市塩津 13-4 白石神社	なし



◀KY-001

**田野上のヤナギ**

集落の中程、畑地の一角に立ち、地上1.5mで2分岐する。

(写真・石田徹)



◀KY-002

**豊水橋のコゴメヤナギ**

根元2分岐であったが、片方が枯死する。鬼怒川の右岸、河川敷に立つ。(写真・石田徹)

KY-003▶

**塩津のコゴメヤナギ**

白石神社の円山川近くに立つ。

(写真・Web 画像)



# 15-F オオバヤナギ(大葉柳)の巨木

ヤナギ科オオバヤナギ属 *Toisusu urbaniana*

※鳥取県以北の川岸等に生える落葉高木。ヤナギ属との違いは、花穂が下垂する。新芽が赤い事から別名アカヤナギともいう。巨木の報告例は少ない。位置図は「ヤナギ科の巨木位置図」に記載。

## ■主なオオバヤナギの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	田部のオオヤナギ 写真 OY-001	4.3m	20m	岡山県真庭市蒜山西茅部	市
B	市野辺大柳 写真 OY-002	4.4m	10m	茨城県筑西市市野辺	市



写真 OY-001  
たべ  
田部のオオヤナギ  
地元では新芽が赤い事からアカメヤナギと呼んでいる。  
(写真・谷田元彦)



写真 OY-002  
いちのべおおやなぎ  
市野辺大柳  
1.3m 辺りで2分岐し、大きく枝葉を広げている。  
(写真・石田徹)

# 15-G ケショウヤナギ(化粧柳)の巨木

ヤナギ科ケショウヤナギ属 *Chosenia arbutifolia*

※上高地、北海道の日高山地の日当りの良い川岸の砂礫地に生える落葉高木。別名カラフトクロヤナギという。樹高2~3mの幼木が、春にかけて全体が白粉で被われる事から命名された。本種の花穂も下垂するが、オオバヤナギは花に腺体があるが、ケショウヤナギにはない。稀に生える樹木で、巨木は貴重な存在である。位置図は「ヤナギ科の巨木位置図」に記載。

## ■主なケショウヤナギの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	上高地徳沢のケショウヤナギ 写真 KY-001	4.85m	12m	長野県松本市安曇上高地徳沢	なし



写真 KY-001  
かみこうちとくざわ  
上高地徳沢のケショウヤナギ

1.5~2mで多数に分岐する。徳沢キャンプ場近くの梓川の河原にあり、増水時には水をかむる場所。苛酷な環境で生き長らえている貴重な巨木である。しかし、近年樹勢が弱っているようだ。  
(写真・Web画像)

# 15-H ドロノキ(泥の木)の巨木

ヤナギ科ハコヤナギ属 Populus maxiimowiczii

※静岡、兵庫県以北の川岸や肥沃な湿地に生える落葉高木。別名ドロヤナギ。巨木は、近年多く確認されるようになったことから、一位が短期間に入れ替り、又二位とは僅差である事等から、日本一の選定は見合わせた。位置図は「ヤナギ科の巨木位置図」に記載。

## ■ドロノキの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 8m 以上の単幹樹、同等評価のドロノキの巨木。
- B 幹周おおむね 6~8m の単幹樹、同等評価のドロノキの巨木。
- C B 評価以下のドロノキの巨木。

## ■主なドロノキの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	小幌内川のドロヤナギ 写真 D-001	6.97m	31m	青森県十和田市奥瀬	なし
B	斜里町のドロノキ 写真 D-002	6.95m	25m	北海道斜里町奥薬別川中流域	なし
B	支寒内のドロノキ 写真 D-003	6.2m	30m	北海道千歳市支寒内	なし
B	仙人橋のドロヤナギ 写真 D-004	6.07m	35m	青森県十和田市奥瀬葛山	なし
C	小壘石のドロヤナギ	5.95m	30m	青森県十和田市奥瀬字子の口	なし
C	十和田湖畔のドロヤナギ	5.9m	34m	青森県十和田市奥瀬	なし
C	大鱈のドロノキ	4.6m	34m	青森県南津軽郡大鱈町三ツ目内 貴船神社	なし
C	永山開拓記念保護木 写真 D-005	4.47m	32m	北海道旭川市永山町 3 丁目 永山東小学校	なし
C	北沢峠のドロノキ(最大株)	3.7m	30m	山梨県南アルプス市芦安北沢峠	なし



◀写真 D-001  
こほろないがわ  
**小幌内川のドロヤナギ**  
国有林を徒歩 1 時間で現地に。  
(写真・Web 画像)



写真 D-002▶  
しやりちよう  
**斜里町のドロノキ**  
写真中央。  
(写真・Web 画像)



▲写真 D-003  
ししやもない  
**支寒内のドロノキ**  
支笏湖湖畔の原生林の中  
に立つ。  
(写真・Web 画像)



◀写真 D-004  
せんになんぼし  
**仙人橋のドロヤナギ**  
仙人橋の西約 200m に立つ。  
(写真・Web 画像)



写真 D-005▶  
ながやまかいたくきねん  
**永山開拓記念保護木**  
永山小学校のグラウンドと国道の境に植  
えられている。(写真・Web 画像)

# 15-I ポプラの巨木

## ■主なポプラの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
伐採	福岡中学校のポプラ 写真 P-001	M6.9m(1.3m 2010)	20m	岩手県二戸市福岡字下川	なし
B	東公園のポプラ(左幹) 写真 P-002	6.6m	25m	青森県石黒市棚ノ木2丁目	なし
B	東公園のポプラ(右幹) 写真 P-003	6.5m	25m	〃	なし
B	大平のポプラ 写真 P-004	6.5m	18m	青森県二戸市足沢字大平	なし
B	夫婦雷樹(2株) 写真 P-005	4.72m 3.8m	25m	青森県石黒市浅瀬石山辺	なし
C	旧開智学校横のポプラ 写真 P-006	M4.37m(0.3m 2015)	12m	長野県松本市開智2丁目	なし
C	土戸のポプラ 写真 P-007	5.0m	15m	長野県北安曇郡小谷村北小谷字土戸	なし



◀写真 P-001 旧日本一のポプラ  
伐採・福岡中学校のポプラ

2014年頃伐採。伐採理由は不明。  
グラウンドの片隅にあり、3mで3分岐  
する見事な樹形であった。



▲写真 P-003  
東公園のポプラ(右幹)  
(写真・石田徹)



◀写真 P-002  
あずまこうえん  
東公園のポプラ(左幹)

地元で日本一としている。斜上する主幹の  
山側1.3m地点を水平に測定した数字で少し  
大きく出る。確認できないので、日本一選定  
は見送った。  
(写真・石田徹)

▼写真 P-004  
おおだいら  
大平のポプラ  
(写真・Web画像)



▼写真 P-005  
めおとらいじゅ  
夫婦雷樹  
左・4.72m 右3.8m  
(写真・Web画像)



▼写真 P-006  
かいち  
旧開智学校横のポプラ  
(2.5mで多数に分岐する。)



▼写真 P-007  
とど  
土戸のポプラ  
(写真・石田徹)

